

看図アプローチを活用したキャリア教育プログラム構成の試み

鹿内 信善¹・石田 ゆき²

Application of the KANZU approach to career education program

Nobuyoshi SHIKANAI and Yuki ISHIDA

概要

鹿内らは看図アプローチという授業づくりの方法を提案してきた。また、看図アプローチという枠組みの中で様々な授業や授業モデルをつくってきた。その中にはキャリア教育に活用できるものも多く含まれている。本稿では、看図アプローチという枠組みの中でつくられてきた授業をキャリア教育のツールとして再構成することを試みた。

キーワード：キャリア教育、看図アプローチ、看図作文

I. 目的

われわれは、看図アプローチという新しい授業方法を提案してきた。われわれが看図アプローチという枠組みの中で開発してきた授業方法や教材には「キャリア教育」に活用可能なものが多く含まれている。本稿では、われわれがこれまでに開発してきた授業方法や教材を、キャリア教育を行うためのツールとして整理していく。

看図アプローチとは「みること」を重視した授業づくりの方法である。看図アプローチは、看図作文の研究から発展してきたものである。看図作文は絵図を読み解き、読み解いた内容を作文にまとめていく方法である。看図作文はもともとは、中国の国語教育の中で盛んに行われてきた作文指導法である。しかし、中国では2001年の教育改革以降、看図作文の授業が少なくなってきた。また看図作文の授業が行われていたとしても、形骸化したものになってきている（鹿内他2014参照）。そこで鹿内ら（例えば鹿内2010, 2014）は、中国の看図作文を参考にしながら、作文授業をアクティブラーニング化する「新しい看図作文」を開発してきた。新しい看図作文（以下

では看図作文とよんでいく）を開発する中で、われわれは授業構成に役立つ様々な原理を見出してきた。またそれらの原理は、作文指導以外にも活用できることを明らかにしてきた（鹿内2015）。看図作文と看図アプローチの関係は図1のようになっている。

本研究では最初に、看図作文の研究から生まれてきた教材から紹介していく。

II. キャリア教育の手法としてのインフュージョン

II-1 インフュージョンとは

下村（2009）は、最も理想的なキャリア教育の手法は「インフュージョン」であろうと述べている。「インフュージョンとは、何かに何かを『注ぎ込む』という意味の英語です。キャリア教育では、ふつうの授業にキャリアの要素を注ぎ込むことをいいます。（下村2009, p.40）」

インフュージョンの例として、国語の授業の中に職業人として働くことについて述べた文章を教材として取り入れることなどをあげている。

キャリア教育では「自己を見つめ、自己の向上を図り、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する」ことも重要な授業目標としている（例えば文部科学省2011, p.77）。

鹿内らはこの目標達成に役立つ看図作文教材と授業方法を開発している。本節ではそれを紹介していく。なお、本節で紹介する内容の初出は、鹿内他（2007a）である。鹿内他（2007a）の内容を抜粋し、かつ加筆したものをキャリア教育プログラムとして再構成していく。

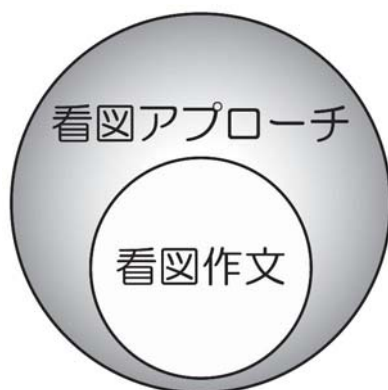


図1

¹ 福岡女学院大学（現在天使大学）

² 日本医療大学

Ⅱ-2 インフュージョンに役立つ教材と授業方法

本節で紹介するのは「看图作文」の研究から生まれてきたものである。看图作文は「国語」の授業にそのまま取り入れられるものである。また「国語」は、小学校から高校まで、どの校種でも最も多くの時間をとって教育課程に組み込まれている。このため、「国語」は、「キャリア教育」を最もインフュージョンしやすい教科である。

Ⅱ-2-1 ビジュアルテキストの作成とその工夫

看图作文の授業では絵図や映像等のビジュアルテキストが必要になる。われわれが行う看图作文の授業では、オリジナルなビジュアルテキストを活用している。図2は本論文の第2筆者石田が制作したオリジナル作品である。ここでは、この絵図を「ギター少年」とよんでおく。



©yuki.ishida

図2 中高生以上用絵図

この絵図には「自己を見つめ、自己の向上を図り、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する」活動を引き出すための工夫を施してある。この工夫については、実際の授業例をあげた方がわかりやすい。そこで次に、実際の授業例をあげて、この絵図の工夫について説明していく。以下の事例は、本論文第1筆者鹿内が、高校の職業系クラスで行った授業の一部である。

まず、生徒たちに図2を見せて「この子（絵図中の少年）は向上心があると思いますか？」と質問する。すると、ほとんどの生徒は「向上心がない」と答えてくれる。「この子は向上心がない」という多数意見を確認した後で、次のように授業を進めていく。

- T これ（サッカーの絵）は何していますか？
S1 ボール蹴ってる。
T ボール蹴ってる。そうですね。こういう風にボール蹴るの、なんて言いますか？
S2 ○○君、サッカー部だ。
T ジャ○○君。
S3 ドリブル。
T そう。ドリブルですよ。じゃ、こっち（バス

ケットボールの絵）は何をしていますか？

- S s ドリブルだ。
T そう、どっちもドリブルしてるんですね。ドリブルって、何のためにするんでしょう？
S4 移動する。
S5 前へ進む。
T そう。移動する、前へ進むですよ。この子は、2枚ともドリブルの絵を貼っています。ということは、
S s あっ、あー！

ここまで授業が進むと、絵図中の少年に対する理解が180度変化していく。「向上心がない」と思っていた子が、実は「前へ進みたい」という願いをもっていたのである。図2絵図は、ものの見方を変えることの大切さを気づかせてくれる教材にもなる。以下に「ギター少年」絵図を使った中学校での実践例を紹介する。

Ⅱ-2-2 中学校での実践例

学習者は国立大学附属中学校の3年生である。作文を書かせるときに、絵図中の「ドリブル」に注目させるため、「書き出し」を与えた。生徒たちにはこの書き出しに続く内容の看图作文を書いてもらった。授業時間は1時限配当である。

「書き出し」部分と、それに続けて学習者が書いた作文の一例を載せておく。

授業者が呈示する「書き出し」部分

（前の部分一部省略）

次の瞬間僕は突然ある事実に気がついた。

「ドリブル…。ドリブルはゴールへの前進だ。2枚のポスターは、相手チームの妨害を乗り越えて、ゴールへ向けてボールを運んでいるという点で同じなんだ。」

ポスターが僕に語りかける。「君は、君はどうなんだ？」

「書き出し」部分に続く中学生Aの作文例

「僕…？僕は——。」

何も答えることができなかった。口ごもってポスターを見上げる。

『どうなんだ？』

もう一度、ポスターが語りかけた。僕はポスターから目をそらし、小さな声でポツリ、ポツリと答えた。

「ポスターは、ゴールへ向かって努力しているけれど、僕にはまだそのゴールにあたるものが見つからない。ゲームとかスポーツとか、ギターとか。やりたいことはたくさんあるんだ。でも、最初はすごく夢中になっていたものでも、途中でどうしてもあきてしまう…。部屋の中にも途中までしかやっていないものばかり増

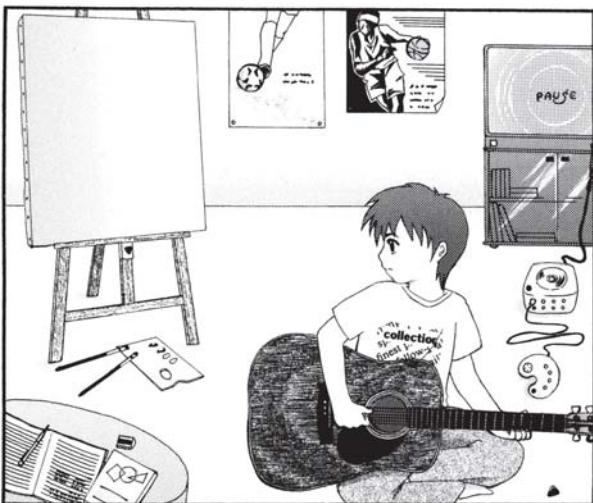
えてしまって…。」
 少しの沈黙のあと、ポスターが言った。
 『いいんじゃないか？…今はそれでも。』
 その言葉を聞いて、僕はおどろいてポスターを見上げた。じっとポスターを見つめる。
 『みんな、そうやってゆっくりと探しているんだ。あせらなくても大丈夫。』
 …『いいんじゃないか？』…この言葉で心がふっと軽くなったような気がした。
 「僕も早く、夢中になれるものを見つけられるといいな…。」¹⁾

本稿は「自己を見つめ、自己の向上を図り、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する」ことを目標にした、キャリア教育の教材や授業方法の紹介を目的にしている。上掲中学生 A の作文では絵図 (図 2) の中に自己を投影させた会話が綴られている。その内容は「自己を見つめ、自己の向上を図り、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する」ものになっている。また、下線部 1 のように「充実した生き方」を希求する言葉で締めくくられている。

ここで紹介した教材と授業方法は、「国語」の時間にインフュージョンしてキャリア教育を行うためのよい「手法」になると考えられる。

Ⅱ-2-3 小学校での実践例

鹿内他 (2007a) では、5つの授業実践例を載せている。そのうち4つは、中学生・高校生を学習者としている。しかし、図2を用いた授業は小学生にも可能である。ただし小学生に実施する場合、学習者が絵図中に描かれている人物と同一化しやすいように絵図をマイナーチェンジしている。それが図3である。図2では、ギター少年は中高生に見えるように描いてあるが、図3では小学生に見えるように描いてある。



©yuki.ishida

図3 小学生用絵図

小学生に対する授業は、6年生を学習者とし、卒業を間近に控えた時期に行った。小学生の授業は3時限配当で行った。3時限分の授業実際は、本稿の紙数の都合で紹介しきれない。授業方法の紹介は割愛し、作文例をひとつだけ載せておく。なお、授業方法については、鹿内他 (2007a) で詳述している。

小学生 A の作文例

「ぼくは何をすれば良いのか」
 ぼくの名前は、シンジ。ぼくは、家でたいくつだから、ゲームをしたけど、何かやる気にならなくて、ポーズでいったんやめた。ふと宿題の事を思い出し、宿題をやり終わったが、まだ、やる気がでない。
 「ぼくは、何をすれば良いんだ…。」
 と、シンジは、自分を見つめて、ふと、
 「今度、図工で絵を描くんだっとなー練習しよ。」
 と、キャンパスを用意し、パレットに絵の具を出しても、何か、だめだ…。
 「そうだ気分直してギターひこう。」
 とギターをひいて、思い出した。
 「ぼくは将来、スポーツ選手になりたかったんだ！！」
 心「やっと自分ができる事を見つけたね…。」
 そこに、もう一人のシンジ君が現れた (自分)。
 「君はだれ？…。」
 心「ぼくは、君の心の中のぼくだよ。君は、自分が何をすれば良いのかを見つけていたね。」
 「うん…。」
 心「君は、スポーツ選手になりたいなら、まずいまままで、やっていたゲーム、キャンパス、ギター、どれも、と中じゃないか。」
 「なんかやる気がなくて、ぼくは、何をすれば良いのか見つけていて、それで…。」
 心「ぼくは、やったら、ちゃんと片付けるよ。」
 「君、ぼくの心じゃないの？」
 心「心の中のぼくの部屋もあるんだ、ぼくの部屋は、片付いているよ。」
 シンジは、心の中のシンジの部屋が見えた。
 「うわー片付いてるねー。」
 心「きれいだろう。シンジ君も、部屋をきれいにしよう。シンジ君は、スポーツ選手になりたいなら、部屋にはってあるポスターみたいに、ドリブルや、シュートを練習して、スポーツ選手をめざしたら、どう？」
 シンジは、心の中のシンジの言葉を聞いて、自分のやる事を決めた。
 「わかったよ！！ぼくは、スポーツ選手をめざす。ドリブル、シュートいろいろ覚えて、スポーツ選手になるよ。」
 心「君なら、なれるよ、ぼくも心の中で応援してるよ、これからもがんばって。」
 「ありがとう心の中のぼく……。」

小学生Aは「自己との対話」という方法を用いて作文をまとめている。この作文も「自己を見つめ、自己の向上を図り、個性を伸ばして、充実した生き方を追求する」ものになっている。この事例も、「ギター少年」絵図を用いた看図作文は、キャリア教育のツールとなり得ることを示している。

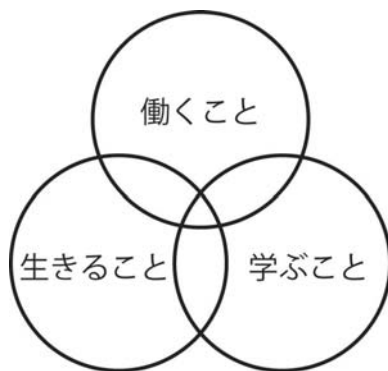
Ⅲ. 「働くこと」の意味を考えるキャリア教育

Ⅲ-1 考えるための観点

下村(2009)は、「キャリア教育から見た現代社会の問題点」も指摘している。下村は、キャリア教育の重要な要素として次の3つをあげている。「働くこと」「学ぶこと」「生きること」。これら3つの要素の関わり方について下村の考え方を紹介しておく。

つまり、「働くこと」の裏には、常に「学ぶこと」がくっついていて考えなければなりません。「働くこと」を長く続けていくためには、「学ぶこと」も長く続けていかなければならないのです。そうすることによって、初めて幸せに「生きること」が可能になるといえるでしょう。

こうしてキャリア教育の重要な3つの要素、「働くこと」「学ぶこと」「生きること」が重なり合ったところに、私たちの充実した人生があるという、キャリア教育の根幹の発想が導かれてくるのです。



(下村2009, p.31)

下村のこの主張は、われわれも首肯できるものである。また、この考えをさらに発展させて、「働くことの意味」「学ぶことの意味」「生きることの意味」を見つけにくいということも大きな問題であるとわれわれは考えている。これら3つの意味は、いつの時代であっても答えを見つけにくいものである。とくに「生きることの意味」については、これまでに多くの人が思索を深め、それを書物にまとめてくれている。それらの一部(例えばAdler邦訳1984, Frankl邦訳1979, Fromm邦訳1977, Singer邦訳1995)は筆者らも熟読している。しかし、「生きることの意味」に関する論考をどれだけ読み込んでも「生きることの意味は、人それぞれが模索していかなければいけないものだ」という結論にしか辿り着けない。

「働くことの意味」について考えることも同様の状況

にある。安藤(2017)は、大学におけるキャリア教育科目のテキストを分析し、「現状のキャリア教育科目が働くことの意味をどのように伝えているか(安藤2017, p.67)」を明らかにしている。

安藤は10冊のテキストを分析している。その結果、「働くことの意味」の取り扱いについては、次の4つのパターンがあることを明らかにしている。

- ① 「働くことの意味」に関する章・節があり、専門的概念を用いて記述しているもの
- ② 「働くことの意味」に関する章・節はあるが、専門的概念を用いず記述しているもの
- ③ 「働くことの意味」に関する章・節はないが、関連する解説やコラム、ワークとして記述しているもの
- ④ 「働くことの意味」に関する記述がないもの

さらに、キャリア教育科目のテキストにおける「働くことの意味」の示され方の特徴を次の2つにまとめている。「第1に、多くのテキストでは、働くことの意味をとらえる多様な観点は提供するが、中核的な意味自体は明示しておらず、その発見を学生自身に委ねている。第2に、働くことの意味を明示している一部のテキストでは、著者の信念や一般常識的解釈を示している。つまり、テキストに見る限り、キャリア教育科目において働くことの意味は、『多様な観点』か『信念・常識』かのどちらかで示されるが、その概念構造の中核は不明であるということできる。(安藤2017, pp.70-71)」

安藤の分析から、「働くことの意味も、人それぞれが模索していかなければならないものだ」という結論に辿り着く。しかし、キャリア教育に携わる教員が、「働くことの意味は、人それぞれが模索していくものだ」と言っ、模索を学生たちに丸投げすることはできない。せめて模索していくための方向づけをしてあげる必要がある。

そこで安藤が着目したのが、「杉村(1990)による近代的労働の意味構造」である。杉村による労働の意味構造の主旨を、安藤は次のようにまとめている。杉村(1990)の39-41ページに相当する部分である。

I: 貢献

集団(企業組織)において、労働自体が目的的活动とみなされる場合。労働は、組織の目的にコミットして参加する「貢献」という意味を持つ。

II: 自己表現

個人にとって、労働自体が内在的な意味を持つ目的とみなされる場合。労働は、自分にとっての意味を形成していく「自己表現」という意味を持つ。

III: 苦痛

個人にとって、組織の中での労働が自分の目的を実現するための単なる手段とみなされる場合。労働

は、その目的のために耐えなければならない「苦痛」という意味を持つ。

IV：役割

集団（企業組織）において、労働が手段の活動とみなされる場合。労働は、組織の目的のためにそれぞれの義務を果たす「役割」という意味を持つ。

（安藤2017, pp.71-72）

本稿では、この中の「自己実現」という意味づけを取り上げていく。その理由は2つある。第1は「労働自体が内在的な意味」をもっているとみなされる事例を取り上げた授業プログラムをわれわれはすでにもっているということである。われわれが授業化の題材としたのは、土木工事の仕事である。土木工事は、ごくごくありふれた仕事である。しかしそのような仕事に従事している人の中にも「美しい仕事」をすることに価値を見出し努力している人もいる。そのような人の仕事をビジュアルテキスト化した看図アプローチの授業は、「自己実現」という観点から「働くことの意味」を考えていく手掛かりを提供してくれる。

第2はFromm（邦訳1997）の主張に関係する。Frommは生き方を「持つ様式」と「ある様式」に分けている。「持つ様式」とは、財産や社会的地位・権力などの所有を追求する生き方である。これに対して「ある様式」とは、自己の能力を能動的発揮し、そのことから生きることの喜びを感じ取っていく「生き方」である。「持つことは、何か使えば減るものに基づいているが、あることは実践によって成長する。（Fromm 邦訳1997, p.154）」

Frommの言う「ある様式」を追求する「生き方」は、自己実現を求める生き方でもある。

前述したように下村（2009）は、「働くこと」「学ぶこと」「生きること」がバラバラになってしまっていることが、現代社会の問題点であると指摘している。「働くこと」「生きること」を「自己実現」キーワードにしてつなげることができれば、キャリア教育から見た現代社会の問題解決に一步近づけるのではないだろうか。

Ⅲ-1 「自己実現」という観点から「働くことの意味」を考える授業

本稿で紹介する授業の初出は鹿内他（2007b）である。その授業を本論文第2筆者石田が改訂しながら実践を続けている。ここでは第2筆者による改訂バージョンを紹介していく。学習者は大学生である。

看図アプローチの授業なのでビジュアルテキストと発問をセットにしてすすめていく。また5人グループの協同学習を導入している。以下に呈示するスライドを順番に載せていく。スライドの中には発問も呈示されている。1枚のスライドに複数の発問がある場合はそれらを同時呈示せず、ひとつの発問に対する集団思考が済んでから次の発問に関する集団思考に移っていく。



スライド1



スライド2



スライド3



スライド4



スライド5



スライド9



スライド6



スライド10



スライド7



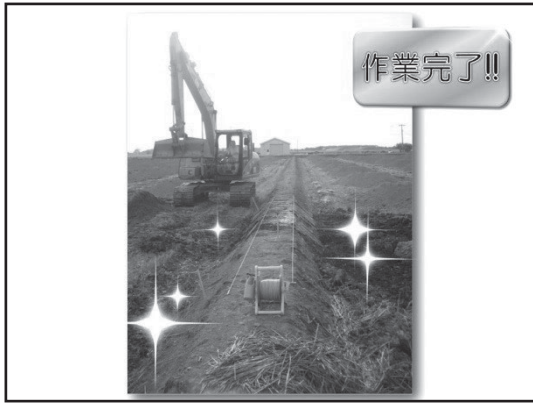
スライド11



スライド8



スライド12



スライド13

このスライドのあと、別な工事現場で行った難度の高い農業土木工事の動画を見せる。その動画の一部を載せておく。



図4



図5



スライド14

看図アプローチでは「よく見てください」という教示は極力控えるようにしている。なぜならば「よく見てください」と教示しても、学習者たちは「よく見るとはどうすることなのか」を知らないからである。「よく見てください」と言っても学習者たちはよく見ることができない。ビジュアルテキストをよく見てほしいとき、教師は学習者の「よく見る」行動を引き出す指示や発問をしなければならない。上掲のスライド中に出てきた指示や発問はすべてこの原理に基づいて構成されている。

人によっては、農業土木工事は土を重機で引っ掻き回しているだけのことに見えるかもしれない。しかし、上掲スライドの指示や発問に反応して、農業土木工事を「よく見た」学習者たちは、そこから、「働くことの意味」を見出していく。この授業では最後に本教材のビジュアルテキスト作成に協力してくれた重機のオペレーターに手紙を書いてもらっている。学生たちが書いた手紙の例を2つ載せておく。

大学生Aの手紙

重機のオペレーターさんへ

初めまして。〇〇大学の2年生をやってる者です。オペレーターさんの技術感動しました…！初めは何をしているのかわからなかったのが、だんだんキレイに整っていく工程、すごかったです。あんなに正確な角度で斜面をけずれるようになるためには、そういうな経験がいると思います。

私も将来、これくらいプロ意識をもって丁寧に正確な仕事ができるようになりたいです。

大学生Bの手紙

ショベルカーのオペレーターさんへ

今回、〇〇の授業で、ショベルカーでの畦畔づくりを見させてもらいました。作業一つ一つにどんな意味があるのかを考えましたが、全然想像が付きませんでした。しかし、どんな意味があるかを知ると、すごいなと思いました。

僕たちもこれから理学療法士として一つ一つ意味のある治療をしたいと思いました。

この授業で、授業者は「働くことの意味を考えなさい」という指示は一切していない。にもかかわらず、上に示した看図アプローチ協同学習を経験することで、学習者たちは「働くことの意味」を主体的に考えるようになる。しかも学習者たちが見つけ出すことの意味は「自己実現」や「社会貢献」に限りなく近づいていく。

IV. まとめ

2017年改訂学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が必要とされている。これに対して西岡（2017）は次のように述べている。「『主体的・対話的な学び』と『深い学び』は必ずし

も容易に両立できるものではないだろう。子どもたちが主体的に対話しつつ学習していたとしても、『深い学び』が実現されない懸念は残る。(西岡2017, p.82)」しかしながらわれわれは、主体的な学びも対話的な学びも深い学びも同時に達成できる方法として看図アプローチを提案している。この研究はわれわれが30年以上も前から論文等で発表してきている。研究の長い継続があるため、汎用性の高い授業づくりの方法となっている。看図アプローチは本稿のようにキャリア教育にも役立てられるし、その他の教科学習にも活用可能なものである。この汎用性の高さをさらに様々な教育場面に役立てていくことができる。

文 献

- Adler,A. 高尾利数(訳)1984 『人生の意味の心理学』 春秋社
- 安藤りか 2017 「大学のキャリア教育科目における『働くことの意味』の検討:テキストの記述を手がかりに」『名古屋学院大学論集社会科学篇』54巻1号, pp.65-80
- Frankl,E.F. 大沢博(訳)1979 『意味への意思—ロゴセラピーの基礎と適用—』 プレーン出版
- Fromm,E. 佐野哲郎(訳)1977 『生きるということ』 紀伊國屋書店
- 文部科学省 2011 『中学校キャリア教育の手引き』 教育出版
- 西岡加名恵 2017 『『主体的・対話的で深い学び』の実現とパフォーマンス評価』『日本協同教育学会』第14回大会要旨集録 pp.82-83
- 鹿内信善他 2007a 「看図作文の授業開発(Ⅲ) - 『自己をふり返り, 未来を探る』活動を促す絵図の作成-」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第58巻第1号, pp.265-278
- 鹿内信善他 2007b 「ヴィジュアル・リテラシーの授業開発(I) - 『入門演習』授業への活用-」『札幌大学論叢』第24号, pp.19-39
- 鹿内信善 2010 『看図作文指導要領-「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン-』 溪水社
- 鹿内信善 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち-看図作文レパートリー-』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2015 『改訂増補協同学習ツールのつくり方いかし方-看図アプローチで育てる学びの力-』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善・李 軍 2014 「看図作文の教育史と今後の展望」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』65巻 第1号 pp.17-31
- 下村英雄 2009 『キャリア教育の心理学』 東海教育研究所
- Singer,I. 工藤政司(訳)1995 『人生の意味—価値の創造』 法政大学出版局
- 杉村芳美 1990 『近代の労働観』 ミネルヴァ書房